

## 平成23年度 事務事業評価表(平成22年度分に係る報告)

評価対象事務事業名	いきいき健康回復教室事業			事業コード	1973
担当課等	所属名	保健福祉部 高齢者支援室		担当係名	
	課長名	渡邊 光市	担当者名	宮 香織	電話番号

## 1. 事務事業の基本情報

総合計画体系	施策の柱	いきいきとして安心できる暮らし	コード 1	施策	高齢社会に適応した高齢者福祉の充実	コード 4
	基本事業	高齢者の社会参加の促進	コード 1	関連予算 費目名	一般会計 3款 1項 3目 健康増進教室開催事業 (015-01)	
	特記事項	総合計画主要事業				
事業期間	<input type="radio"/> 単年度 <input checked="" type="radio"/> 単年度繰返 <input type="radio"/> 期間限定複数年度			⇒(開始年度 平成15年度～)		
事務事業の概要	高齢者向けの運動をする機会を提供し、運動習慣の継続に結びつけ、介護予防を図ることを目的とする。平成21年度からの太極拳講座(津志田地区)及び今年度からはヨガ講座(厨川地区)を実施する。					
根拠法令等	なし					
この事務事業を開始したきっかけ(いつ頃どんな経緯で開始されたのか)						
平成15年度マシントレーニングを取り入れた体カづくりから開始されたが、地域での開催や続けやすさ等を検討し、岩手大学からの助言を受けながら平成19年度太極拳講座を緑が丘地区でモデル開始、21年度には、津志田地区へも拡大し2箇所で開催実施した。緑が丘地区では参加後にサークル化されるなど継続の取り組みがされたことで22年度に終了。今年度からは、ヨガの動きが高齢者の健康づくりに有用ということで「介護予防ヨガ」を厨川地区で実施する。						
この事務事業に対して関係者(市民、議会、事業対象者、利害関係等)からどのような意見・要望が寄せられているか						
参加者からは継続参加の希望が多く、好評である。						
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令)はどう変化したか。今後の見通しはどうか						
継続して地域で取り組めるように、開催会場等と話し合いを進めていく。						

## 2. 事務事業の実施状況(Do)

①対象 (誰を、何を対象としているのか)	一般高齢者	⇒	②対象指標 (対象の大きさを示す指標)	A. 65歳以上の高齢者(前年度3月31日現在人口統計)	単位	人
				B.	単位	
				C.	単位	
③手段 (事務事業の内容、やり方、手順)	22年度実績(22年度に行った主な活動) 高齢者向けの軽運動として太極拳教室を、緑が丘地区と津志田地区をモデル地区として実施した。  23年度計画(23年度に計画している主な活動)  津志田地区は太極拳講座を継続、23年度からは、厨川地区で介護予防ヨガ講座を開始する。	⇒	④活動指標 (事務事業の活動量を示す指標)	A. 実施延回数	単位	回
				B. 実施延募集人数	単位	人
				C.	単位	
⑤意図 (この事業により対象をどのように変えるのか)	継続して運動する習慣が身につく。	⇒	⑥成果指標 (意図の達成度を示す指標)	A. 参加者数 【指標の性格:●上げる ○下げる ○維持する】	単位	人
				B. 効果を感じると答えた延べ人数 【指標の性格:●上げる ○下げる ○維持する】	単位	人
				C. 【指標の性格:○上げる ○下げる ○維持する】	単位	
⑦結果 (上位基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するか)	社会参加の促進が図られている	⇒	⑧上位成果指標 (上位基本事業の成果指標)	生きがい活動をしている高齢者数(単位:人) シルバー人材センター登録率(単位:%)		

2. 事務事業の実施状況(続き)

⑨事務事業の各種指標の実績及び目標値

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	目標年度 目標値
対象 指標A	65歳以上の高齢者(前年度3月31日現在人口統計)	人	59,382	62,387	63,600	62,697	64,936		年度
対象 指標B									年度
対象 指標C									年度
活動 指標A	実施延回数	回	7	56	52	52	64		年度
活動 指標B	実施延募集人数	人	210	1,300	1,220	1,220	1,600		年度
活動 指標C									年度
成果 指標A	参加者数	人	206	1,026	1,220	915	1,600		年度
成果 指標B	効果を感じると答えた延べ人数	人	151	520	610	648	800		年度
成果 指標C									年度

⑩事務事業に係る事業費

区分	指標名	単位	20 年度実績	21 年度実績	22 年度計画	22 年度実績	23 年度計画	24 年度計画	*****
事業費	A	千円	42	225	288	225	288		*****
財源 内訳	④国	千円							*****
	⑤県	千円							*****
	⑥地方債	千円							*****
	⑦一般財源	千円	42	225	288	225	288	0	*****
	⑧その他	千円							*****
	合計(④~⑧)(=A)	千円	42	225	288	225	288		*****
延べ業務時間数		時間	45	68	68	68	68		*****
職員人件費(B)(臨時職員賃金は、事務費に含む)		千円	180	272	272	272	272	0	*****
トータルコスト(A)+(B)		千円	222	497	560	497	560	0	*****

### 3. 事務事業の評価(See)

必要性評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の意図は、結果(政策体系)に結びついていますか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 結びついている	理由: 高齢者の健康増進を支援することは介護予防につながる。
	② 公共関与の妥当性 市がやるべき事業ですか？ 税金を使って達成する目的ですか？	<input type="radio"/> 見直す余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 妥当である	理由: 介護予防につながるほか、生きがい活動や社会参加の促進につながる。 ↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他
	③ 対象の妥当性 対象の設定は現状のままでいいですか？ 広げられませんか？ また絞らなくてよいですか？	<input type="radio"/> 拡大または絞る余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	理由: 高齢者の介護予防及び健康増進、社会参加の促進を目的にしていることにより妥当である。 ↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input type="radio"/> 内部管理事務である <input checked="" type="radio"/> その他
	④ 意図の妥当性 意図(何を狙っているのか)を絞ったり拡大したりして、成果向上できませんか？	<input type="radio"/> 拡大または絞ることができる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 現状で妥当である	理由: 高齢者の健康増進等の支援を通じ、介護予防や社会参加促進を目的としていることから妥当である。 ↳「妥当」とする理由: <input type="radio"/> 法定事務である <input checked="" type="radio"/> その他
有効性評価	⑤ 成果の向上余地 成果がもっと向上する余地はありますか？	<input type="radio"/> 向上余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 向上余地がない	理由: 現在は、モデル地区として取り組んでおり、妥当である。
	⑥ 廃止・休止の影響 事業を廃止・休止した場合、施策の成果に及ぼす影響はありますか？	<input type="radio"/> 影響がない ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 影響がある	その内容: 高齢者の健康増進等の機会が減るため、生きがい活動や社会参加促進に支障が生じる。また、地域での継続的な講座開催のきっかけが減る。
	⑦ 類似事務事業との関係 類似の事務事業(国、県、市の内部、民間)はありますか？	<input type="radio"/> 類似事業がある <input checked="" type="radio"/> 類似事業がない	事業名: _____ ※類似事業がある場合、その事務事業と統廃合又は連携を図ることにより成果向上はできませんか？ 統廃合・連携検討 <input type="radio"/> できる ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> できない 理由: _____
効率性評価	⑧ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できる余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 事業費は講師謝金のみで実施している
	⑨ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費(延べ業務時間数)を削減する余地はありますか？	<input type="radio"/> 削減余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 削減できない	理由: 講座1回あたり1名の講師依頼であり、これ以上の削減はできない。
公平性評価	⑩ 受益機会の適正化余地 受益機会の適正化余地はありますか？	<input checked="" type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	その内容: 開催地域を広げることで、より多くの市民が参加できる
	⑪ 費用負担の適正化余地 受益者の費用負担の適正化余地はありますか？	<input type="radio"/> 適正化余地がある ⇒ 4. 事務事業の改革案へ <input checked="" type="radio"/> 公平・公正である <input type="radio"/> 特定の受益者はいない	その内容: 健康増進・運動習慣のきっかけの場として実施しており、費用負担は想定していない。

4. 事務事業の改革案(Plan)

改革／改善方向	①改善の方向性(この事務事業をどう変えていくか、廃止や拡充、事業方式改善など) ※複数ある場合は、代替案その1, 代替案その2とすること  ②改革, 改善を実現していく際に想定される問題点は何ですか? それをどう克服していきますか? (関連部門や全庁的な調整の必要性, トップへの要望も含む)
---------	--

5. 課長意見

一次評価	(1)一次評価者としての評価結果 ① 必要性      ● 妥当              ○ 見直し余地あり : ② 有効性      ● 妥当              ○ 見直し余地あり : ③ 効率性      ● 妥当              ○ 見直し余地あり : ④ 公平性      ● 妥当              ○ 見直し余地あり :	(2)全体総括(振り返り, 反省点)  高齢者の健康増進, 社会参加の促進及び介護予防の取組みとして, 事業の必要性は高い。講座修了者による健康サークルの結成や開催地区の拡大により, さらなる成果の向上が見込まれる。
今後の方向性と改革改善案	(3)今後の事務の方向性(改革改善案) <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	
		
方向付けの理由と改革改善の内容 事業の成果を検証し, 必要に応じて改革改善を行なう。		